

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400021		
法人名	株式会社 イクロス		
事業所名(ユニット名)	グループホーム アネックスパル		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2666		
自己評価作成日	令和 4年 9月 23日	評価結果市町村受理日	令和4年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和4年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常日頃、利用者様が各々のペースでゆっくりと過ごし、時に自身で出来ることを行い充実した気持ちを感じて頂き、共同生活を送る上で笑顔で暮らせるように支援させてもらっています。

職員間で発案した事業所独自の『共にゆっくり歩こうよ。』を理念に掲げ、利用者と共にゆったりと過ごせる環境を作り上げている。隣接する同法人施設とも連携し、合同の研修会に参加したり協力体制も整えている。施設の新たな取り組みとして、まずは3名の利用者の心身状態に応じた項目選択式のアラート通知できる介護ロボットを導入しており、センサーマットの役目も果たし、重度化や看取り介護の際の強みともなっている。ゆくゆくは全利用者に導入する予定である。食材の下ごしらえや調理の際は利用者も一緒に行い、食を楽しめるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を念頭に、日々意識し、共有しながら実践につなげています。	地域密着型サービスを念頭に職員間で発案した『共にゆっくり歩こうよ』を理念にしている。玄関やフロアに掲示し職員全員が実践につなげられるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の影響で地域の行事の中止が続き参加が難しい状況である。認知症カフェを開催したら他部署との交流などできる範囲で支援しています。	コロナ禍で感染予防対策を取りつつ、利用者が地域とのつながりを絶やさないよう計画作成している。認知症カフェは、近日中に開催を予定しており町内会にも参加を呼びかけるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町から委託を受けた認知症カフェを開催したりしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しているが、コロナ禍で難しい状況である時は、文書にて報告し意見を頂いていて、サービス向上に活かせるようにしている。	昨年12月以来開催できず、家族や包括支援センターなどに事業所の取り組み状況を文書で報告し、意見をもらいサービス向上に努めている。10月末には開催できるよう、家族や行政などに依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村には、相談したりして関係を築くよう努めています。	年1回は虐待防止や心肺蘇生法などについて行政から講師を招き、他部署合同の研修会を開催している。施設長が総括して市町村との協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内や外部の研修にて身体拘束について学ぶ機会を設けています。又3ヶ月毎に身体拘束委員会を開き内容を全職員に供覧し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	外部の研修や法人内でのケースなど身体拘束委員会を3か月に1回は開催し、スピーチロックをしない意識付けをしている。事業所では身体拘束や玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内や外部研修を通じ、高齢者虐待について学んでいます。日頃から意識をもち疑問があれば、話し合い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内や外部の研修で学ぶ機会を設けています。利用者に必要な際には、関係者と話し合い活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分な話し合いを行っており、不安や疑問があれば説明し、理解・納得して頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来所された際に、利用者様の近況報告や意見や要望などあれば聞けるように心掛け、運営推進会議や介護相談員の受け入れなどで外部からの意見を聞けるような機会を設けています。	来所される家族とは直接意見を聞き、遠方の家族などには電話やラインで報告し、意見を聴取し運営に反映している。また事業所独自のアネックスパル便りも郵送し、連携を密に取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内会議や部署会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けており、それらを運営に反映させています。	社内会議は2カ月に1回、部署会議は検討課題があれば近日中に開催している。会議内容は全職員が目を通しチェックしてもらうよう徹底している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得など個人のスキルアップに会社から補助を出し、研修への参加も積極的に進め、各々が向上心を持てる環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を2ヶ月に一度開催し、全職員が参加するようにしています。個人のレベルに合わせて外部研修にも参加してもらい自己研鑽しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し、ネットワークを広げ、勉強会などで習得した知識をサービスの質の向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の言葉を傾聴し、発語のない方は表情を観察し、不安や要望を理解できるよう努力し、本人の安心を確保できるよう信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様を優先で考えた上で、家族様の不安や要望を聴き、利用者様の支援につなげていくことで信頼関係が構築できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、本人・家族様、まわりの関係者から情報を収集し、本人が必要な支援を見極められるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの状態を把握し、暮らしを共にする者同士協力し合える関係が築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での支援だけではなく本人と家族の絆を大切にし、共に支えられるような関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において、外出や訪問が難しい中で、できる範囲での支援を行い、関係性が途切れないように努めています。	事業所内や地域でのイベント参加は計画しているが、感染予防対策のため保健所からの指導で中止となっている。近所を散歩したり、訪問理容の受け入れは行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を見極め、孤立しないよう職員も間に入り関わりがもて、支え合える支援になるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対処の理由が死亡のケースが多く、本人とは途切れてしまうのですが、家族様とは偶然町中で会う時もあり、その際はお話することがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中や行動で、一人ひとりの意向を把握できるよう努め、困難な場合は、表情・仕草などから把握できるよう努めています。	言語化できない利用者の表情を観察し、抑制するのではなく屋外の景色や匂いなどの刺激は功を奏していることを発見するなど、利用者本位の状態把握に努め実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族様などから生活歴や暮らし方等詳細に聴き本人のことを把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日の本人の心身状態を観察し、変化に気づき現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の思いを踏まえ職員間で話し合い、意見やアイデアを反映し本人の望む暮らしになるよう現状に即した介護計画の作成に努めています。	一人ひとりの思いを汲み取り、家族の意向も確認し、認知症センター方式シートを作成している。職員間でチームを作り、意見を出し合った内容をモニタリング表に記録し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に一日の様子を記入し、申し送りにて情報共有し、気づきを大切に、それらを話し合い実績や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に変化するニーズに対応できるように支援し、既存のサービスだけではなく、ニーズに柔軟な支援を臨機応変に対応できるよう考慮します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は、地域の行事への参加やスーパーへの買い物など機会を設けていたが、今は難しい状況である為、季節に応じた行事や他部署との交流など楽しめるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の要望にて、かかりつけ医を選択し往診対応となっています。緊急時は主治医の指示にて受診し適切な医療を受けられるように支援しています。	利用者や家族の要望で一カ所の医療機関に限定せず往診を受けている。訪問看護事業所とも連携し、緊急時の対応を得ている。検査など受診が必要な場合は職員が付き添い、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間に一度訪問看護師が来所し情報を伝えていきます。その他必要時には連絡し指示を仰ぎ、受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、安心して治療を受けられるように、利用者様の情報を詳細に伝え、退院時にも情報収集できるように病院関係者との関係を作っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、事業所としての看取りの在り方の指針を示し説明させてもらっています。重度化になりそうな時には、家族様の意向を確認し、主治医からの説明する機会を持ち、同意して頂いた上で情報共有し関係者と共にチームで支援できるように取り組んでいます。	入所時に重度化及び看取りに関する指針の説明をし、文書で同意を得ている。その際、主治医にも意見を記載してもらっている。看取りの介護計画書も作成し、今年6月にも看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	白浜消防署の協力を得て、職員全員参加による事故発生時に備えた研修を定期的に行い、実践力を身につけるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、全職員・利用者も参加しています。又通報機器を使い実際に通報訓練も行っています。夜勤者は夜間を想定した訓練で確認しています。	年2回の防災訓練はコロナ禍で開催できていないが、近日常に消防署より消火器やスプリンクラーの点検を受ける予定。火災報知器が作動した場合は、消防署に直結している。11月には、通報機器の作動訓練やAEDと心肺蘇生法の訓練を予定している。	火災を想定した訓練での避難場所は、敷地内の駐車場であるが、車の出入りや街灯などを推察した上で、安全な経路で待機場所に誘導できるよう図で示し、事業所内に掲示するなどの工夫を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束の観点から、一人ひとりの人格を尊重し意識した声掛けや対応を心掛けています。	排泄の声掛けなど場面ごとに言葉の意識づけをし、気になった点は注意し合っている。人生の先輩として敬意を持ってプライバシーや人格を尊重し、同性同士の対応も配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを訴えられるように配慮し、その方なりの自己決定ができるように工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりのペースで過ごせるよう支援し、希望があれば傾聴し、沿った支援ができるように行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で服装が選べる方は本人が決定し、支援する方は一緒に選んだりしています。定期的に訪問理容も利用し、髭剃り・爪切りなども支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好きな物を会話の中で聞いたり食事風景の中で確認したりして、楽しみな時間になるように心がけ、利用者に応じた準備や片付けを任せたり一緒にしています。	タニタの料理本を参考にして栄養が偏らないよう、メニューを一緒に考え、食材の下ごしらえも手伝ってもらっている。誕生日や行事によってバイキングにしたり、オヤツ作りなど工夫している。ときに外食も楽しんでいたが現在は控えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	引き続き食事量・水分量を把握し、一日を通じて確保できるよう支援し栄養バランスを考えた献立作りをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの力に応じた口腔ケアを行ってもらっています。自分でされる方も時折確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いきる限りトイレで排泄できるよう支援しています。	排泄が自立している利用者は、自尊心を傷つけないよう排泄後の匂いを察知し、排便の有無を記録している。排便困難な利用者は、訪問看護師と連携し下剤や腹部マッサージ、浣腸、摘便を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防の為に食事や運動への働きかけで工夫し、排便が難しい場合は主治医や訪問看護師に相談し、薬の処方や浣腸などで対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務の都合にて週3回にしているが、本人の希望や体調に合わせて個々に対応できる支援をしています。	利用者の排便の有無など状態に応じて機械浴や個浴で週3回は入浴し、希望や体調に応じて対応している。保湿クリームやワセリンなどは施設で準備し、皮膚状態に応じてケアしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて対応し、寝具や室温の調整などで安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬は、説明書などで確認し誤飲のないように努めると共に本人に応じた支援を行い、症状の変化にも注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意なこと・できることを役割とし、感謝を伝えることで張り合いを感じてもらえるよう支援しています。季節に応じた行事やドライブなど気分転換になるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、今までの外出支援や行事の参加など難しい中でできる範囲で行える事を考え支援しています。	敷地内の散歩はしている。今年はドライブで車中から桜の花見をした。例年であれば、家族との外出も出来ていたが現在は控えてもらっている。11月には事業所独自の秋祭りを開催する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は所持されていたが、長期入所となり、又コロナ禍で外出もあまりできずお金を使う機会もなく持たれなくなった。小口現金は事業所で管理し必要な時は使用して頂けません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたり、電話をしたいと訴えることもない状態であり、家族様から電話があれば取り次ぐが聞こえにくいようであり会話にならない様子です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、不快な思いや混乱をまねくことのないよう配慮し、季節に応じた作品を飾ったり居心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。	玄関アプローチは広くスロープと階段がある。室内もバリアフリーでフロア出入り扉は引き戸で間口を広く取れる。共用空間は広く採光も良好で、事務所や台所からフロア内を見渡せる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、利用者様同士距離が保てるよう椅子やソファを配置し、一人ひとり自由に過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって安全を考慮した上で、馴染みの物など家族様に準備して頂き心地よく過ごせるように工夫しています。	居室の扉は間口が広く採光も十分に明るい。使い慣れた家具や飾りをして居心地よい空間作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、その情報を活かし安全を優先した上で、自立して生活が送れるように工夫しています。		